


# 「医師及び医療関係職と事務職員等との間等での役割分担の推進について」

平成19年12月28日付け医政局長通知

- 医師でなくても対応可能な業務を医師が行っていることが病院勤務医の厳しい勤務環境の一因。
- このため、医師等でなくても対応可能な業務例を下記のとおり整理。

事務職員・看護補助者	助産師	看護師等
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 書類等の記載の代行                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・診断書</li> <li>・診療録</li> <li>・処方せん</li> <li>・主治医意見書等</li> </ul> </li> <li>② オーダリングシステムへの入力代行（診察や検査の予約）</li> <li>③ 院内の物品の補充・患者の検査室等への移送等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 正常分娩における助産師の活用</li> <li>② 妊産婦健診や相談における助産師の活用</li> <li>③ 病院内で医師・助産師が連携する仕組みの導入（院内助産所・助産師外来等）</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 訪問看護等における医師の事前指示に基づく薬剤の投与量の調節【看護師】</li> <li>② 静脈注射の実施【看護師】</li> <li>③ 救急医療における診療の優先順位の決定【看護師】</li> <li>④ 採血の実施・検査の説明【臨床検査技師】</li> <li>⑤ 病棟等における薬剤管理【薬剤師】</li> <li>⑥ 医療機器の管理【臨床工学技士】</li> </ul>